第 140 回医療ビジネス研究会のご案内

近年のがん治療は標準治療（外科手術、抗がん剤治療、放射線治療）に加えて、「第4の治療」としてがん免疫療法が注目されています。がん免疫療法には体全体の免疫を高める**非特異的がん免疫療法**と、がん細胞のみに高い免疫力を発揮すると注目されている**特異的がん免疫療法**があります。

そもそも、免疫システムとは細菌やウイルスなど自身の細胞以外の異物を排除し体を守る仕組み（抵抗力)で、感染防御のみならず神経系や代謝系とともにホメオスタシス(恒常性)等、生命活動そのものに重要な役割を果たします。また、免疫システムには人間が生まれ持つ、外敵を攻撃破壊する**自然免疫システム**と、自然免疫システムで防御できない毒素分子や小さな病原体や細胞の中に入り込んだ病原体などに対処する**獲得免疫システム**が有ります。

医療事業再生機構では昨年より「Ⅱ型糖尿病克服患者の会」の活動支援を行っておりますが、**ファイトケミカルの摂取**と、**代謝を上げる**ことを継続させ習慣化させることを 2 大目標としております。共に免疫力の強化に資する事ではありますが、生活習慣の転換がどのように免疫システムに影響するのか、そのメカニズムを理解する事も行動変容には必要な事と認識します。

今回は免疫（細胞生物）学研究者の小安氏をお招きし、ご自身の研究を基に免疫機能の基礎から今後の動向（課題と可能性）まで平易に解説戴きます。また、同氏が所属される理研にて主導されているプロジェクトに関してもお話頂きます。個々人の個体差に対応する予防医療の実現を目指し、研究機関、医療機関、企業等と連携し、人工知能（AI）技術を駆使し、大量の健康関連データを活用することで革新的な解を導き、人生百年時代の実現に向けた取組みにも言及頂きます。

2，000万人以上の潜在患者がいるといわれるⅡ型糖尿病発症の原因は、インシュリン抵抗性異常とされていますが、背景には免疫細胞が集まる脂肪組織の炎症があるようです。脂肪組織の炎症はがんや多くの生活習慣病の元凶でもあるようですので、脂肪組織における免疫細胞の機能解明こそが、代謝系と免疫系の相互作用の実態解明にも繋がると考えられます。免疫学的理論と AI による公衆衛生的アプローチで、個体差を考慮する最先端の医科学イノベーションをお聞きする絶好の機会でもあります。

体調不良の際に画一的な対応をするのではなく、免疫力を強化する対応と個の特性を理解した精度の高い対応で、より安全で効果的な体調管理を実現させます。さらに、そのメカニズムは、がん等の疾患にも有効（可逆的）に作用するのかどうか、大いに興味が持たれるところであります。臨床に携わる方はもとより、セルフメディケーションに取組む方には是非ともお聞き頂きたくご案内申し上げます。

2019 年 4 月

特定非営利活動法人 医療事業再生機構

記

- テーマ:「免疫学と AI 技術の活用で拓く健康100年時代」
- 講　師:小安重夫　氏　理学博士、国立研究開発法人　理化学研究所　理事　同生命医科学研究センター　免疫細胞システム研究チーム　チームリーダー、慶應義塾大学医学部　客員教授
- 開催日時:2019 年 5 月 15 日（水曜日）18:30～20:30

以上

※　医療ビジネス研究会への参加には受講票が必要です。参加を希望される方は弊会 HP よりお申込みください。